

## 倉田タカユキ作品展

～われわれはどこにゆくのか～

2019年10月5日(土)～13日(日) 11:00～18:00

三鷹ギャラリー・カバリスン (7日休廊)

三鷹市下連雀2-12-29 0422-48-2677

本年8月に新国立美術館で開催された日本フランス現代美術世界展にて、秋の紅葉を描いた作品がサロン・ドートンヌ賞を受賞しました。自宅近くの神社の森を描いた作品で、筆の勢いを重んじ一気呵成に仕上げた作品です。大きくとらえた面とそれを切り裂く線で構成し、画面全体を調和した色彩で統一することで、一つの気で作品を包み込みたいという思いで描いています。サロン・ドートンヌは、1905年マチス・ルオーらの新進気鋭の画家たちが、既存の価値観を打破するために設立した美術団体で、この4年出品をつづけています。

今年は、8月に軽井沢追分にある新設ギャラリーで個展を開催しました。軽井沢に暮らす人たちや、そこで制作に励む芸術家の方とも交流することができ、作品の制作に大変刺激を受けました。今回の三鷹での個展では受賞作品を含め、2016～2018年にフランスのサロン・ドートンヌに出品した作品・フランス滞在中に制作した油彩作品・今年夏に滞在した軽井沢・瀬戸内の風景画、そして大好きな馬の作品など約30点を展示予定です。個展のサブタイトルに【われわれはどこにゆくのか】と題しました。これは、この数年サロン・ドートンヌに出品をつづけている作品のタイトルです。自然や動物、人間は命あるもの。しかしその命は永遠ではない。私たちのゆくさきを見つめたいという思いで題いたしました。三鷹駅南口より徒歩9分。玉川上水沿いの山本有三記念館の隣の瀟洒なギャラリーです。是非ご高覧・ご批評ください。

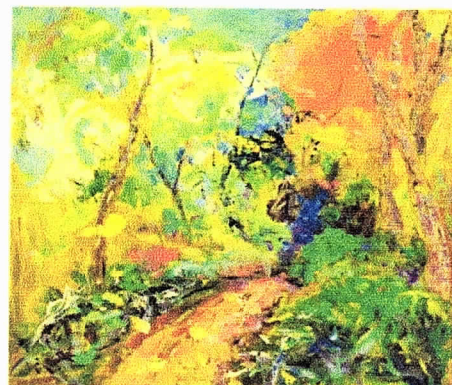
また10月9日から始まる2019年サロン・ドートンヌ展には『われわれはどこにゆくのか2019』と題した人物画を出品しています。サロン・ドートンヌ会長シルヴィ・ケ克蘭女史より昨年の出品作品『われわれはどこにゆくのか』について、以下のようなコメントをいただいております。

主観的感性に重きを置く表現主義。人間の内面を描いた大胆なデフォルメ。それでいて色と形の誇張に陥らない表現主義の反響。野獣派への接近。これらの代表作はムンクの叫び、あるいはフランツマルクの青い馬。ここにあるテーマは日本の伝統よりヨーロッパに向いている。3原色を用い、強い黒色の縁取りそこから発せられる苦悶と過度にゆがめられた表情が魂の動揺を作り出す。そしてわれわれに問いかける。《われわれはどこにゆくのか》洗練された構図と配置。きわめて熟成させたタッチである。

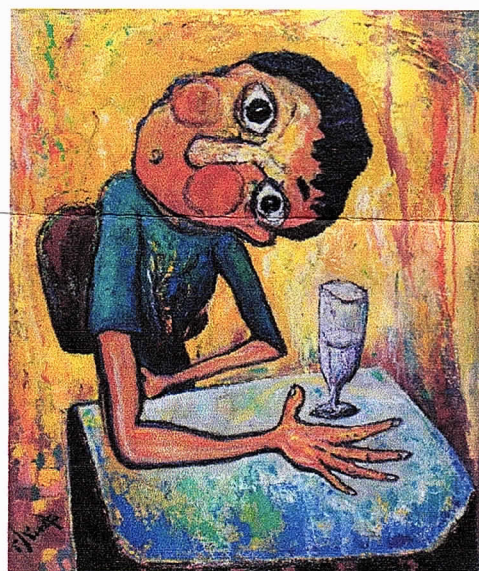
### 【作家略歴】

1962年横浜生まれ 早大文卒  
永瀬義郎の館・東京版画研究所にて版画を学び、その後油彩を発表  
太陽美術協会会員推挙 ルサロン、伊豆美術祭展入選  
練馬美術館、ギャラリーコンセプト21にて個展開催  
日本橋三越乗馬サロンにて馬の絵展  
上野の森絵画大賞展1次賞候補  
ベルギーオランダ国際美術展、コルシカ美術賞展推薦出品  
パリ国際美術展推薦出品  
日仏現代美術世界展連続出品 2019年サロンドートンヌ賞受賞  
2016～2019年サロン・ドートンヌ連続入選 個展22  
現在 国際美術家協会会員 日本ウマ科学会評議員  
早稲田大学馬術講師 伯楽会事務局

## サロン・ドートンヌ賞



倉田 タカユキ 「森の交響曲 (秋)」  
2019年日仏現代美術世界展 サロンドートンヌ賞受賞作作品



2018年サロンドートンヌ出品作

われわれはどこにゆくのか

作家アトリエ  
〒352-0034 埼玉県新座市野寺 4-11-41  
TEL 042-471-1208  
メール kurata-tam@nifty.com